

水泳の授業が始まりました！

1学期もあっという間に、最後の7月に突入する時期に差し掛かってきました。先週からは、水泳の授業も始まりました。梅雨は開けておりませんが、だんだんと夏に突入していきますね。

さて、私も水泳の授業に参加し、監視者として、指導の補助などを行っています。これまで子供たちは、コロナ禍で、十分な練習ができていないため、高学年でも泳力がついていない児童が多いという印象です。

私の以前の勤務校では、

1年生：「ふしうき（力を抜いて手を伸ばして浮かぶ）」ができる

2年生：「けのび（ふしうきの状態で壁を蹴って進む）」で、5m以上進むことができる

3年生：「面かぶりクロール（息継ぎなしのクロール）」で、10m以上泳ぐことができる

4年生：「息継ぎをするクロール」で、25m以上泳ぐことができる

5年生：「息継ぎをするクロール」で、50mを目標に泳ぐことができる

6年生：「息継ぎをするクロール」と「平泳ぎ」で50mを目標に泳ぐことができる

のような目標で指導をしていました。

夏休みには、毎日のように学校の開放プールに通い、遊びながら泳ぎの練習をしていたものです。保護者の皆様の中にも、開放プールの御経験のある方も多いと思います。

しかしながら、コロナ禍で水泳に関する状況は、一変しましたね。現段階では、子供たちには、まずは「水に慣れること」「水に恐怖感を覚えないこと」などから、スタートしなくてはなりません。本年度の計画では、2時間続きの授業を最高で6回行う予定ですが、この中で、上記の力をつけることは大変難しくなっています。また、開放プールもなくなり、子供たちの泳ぐ機会も、少なくなっています。

学校としましても、こういった状況の中、1学期終了まで、数少ない授業ですが、できるだけ能力別に分けて練習を行い、少しでも上達できるように指導していきます。ただ、厳しい指導を行うと子供たちの練習へのモチベーションもあがりませんので、楽しく水に慣れることを中心に進めてまいります。少し苦手な児童は、気持ちが前向きにならないこともあります。安全面に配慮し、無理のない指導を心掛けますので、御家庭でも励ましの声かけをよろしくお願いいたします。また、スイミング教室に行っていないお子さんでも、もし、海やプールに行ける機会がありましたら、御家庭でも御支援いただければ幸いです。

ニュース5・7・5の募集について

今回は、109句の応募がありました。私の方がなかなか応募作品のとりまとめができないため、選句ができず、申し訳ございませんでした。今回の作品は、校内に掲示し、中国新聞に応募しました。1学期もあと1ヶ月ほどとなりました。これからのお題は、「水泳」「夏休み」などが書きやすいと思います。子供たちからの多くの作品をお待ちしていますので、御家庭でもお声かけをお願いいたします！

- | | | | |
|----------------------|----|-------------|-----------|
| ○ 人形と お風呂に入る 楽しいな | 3年 | たまる
田丸 | ゆめ
侑芽 |
| ○ がんばった 反ぶく横とび 新記ろく | 4年 | まつもと
松本 | ゆい
結愛 |
| ○ あつい夏 アイスを食べて ひんやりだ | 4年 | くるしま
久留島 | ありさ
有紗 |
| ○ 練習の 成かを見せる 運動会 | 4年 | いしはら
石原 | ゆうご
悠伍 |
| ○ 体育の とびばこやっぱり むずかしい | 5年 | いしまる
石丸 | ゆいな
結菜 |

校長の真面目な子育て日記③⑥(長文で失礼します)

前号の校長だよりでお知らせしましたように、2年2組の担任が妊娠初期の体調不良で、お休みをしております。該当学級の児童、保護者の皆様には、大変な御迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。現在、該当学級の授業は、校長、教頭を中心に、指導しております。私も、学級での授業は、久しぶりでしたが、最後に担任をしましたのが、2年生でしたので、以前を思い出しながら、算数科の授業を行っています。実際に授業を行いますと、学級の児童の様子が大変よくわかります。児童の特徴や良さ、頑張ってもらいたいことなどです。また、算数の授業を通して、児童がここで計算をつまずくんだな、とか、この学習は高学年につながる大切な学習だなとか、次の学年以降の学びを意識して指導をしています。特に、計算問題は、これから先ずっと必要な力ですので、毎授業、復習の「まめテスト」を行い、着実な力を付けられるよう工夫をしています。はじめは、なかなか満点がとれなかった子が、満点を取って喜んでる姿を見ると、指導者として大変な喜びです。私は、授業の中で「間違えることは、とっても素晴らしいことだ」と子供たちに話しています。とかく、間違ったり、悪い点数のプリントやテストを持ち帰ると「何してるの!」と言いたくなるのですが、できなかったことを指摘したり、責めたりしても点数が伸びたり、学力がついたりはしません。間違ったところを繰り返して練習することで、次にできるようになれば良いのです。間違ったからこそ、勉強するべきところがわかるのです。そのためには、「間違ってもチャレンジする」気持ちを育てることが大切です。「素直に」「ひたむきに」「繰り返して」努力できる子が、後々力をつけてきます。海田西小学校では、新聞を読み進める「NIEタイム」、国語・算数を中心とした木曜日金曜日の朝に行う「ドリルタイム」、5時間目の「昼読書」、学習につまづいている児童を対象とした「給食前学習」など、児童の学力向上のための手段を整えています。他の地区の学校では、なかなか行っていない取組が多いです。私の娘の小学校では、こういった学力補充は、行っていませんでした。とはいえ、すべての子供たちに完璧な学力をつけることは大変難しいことです。御家庭で、「ここが分かっていない」などお気づきのことがありましたら、早めに学校にお知らせいただき、学校と家庭で連携して指導していければと考えております。この場合、家庭で「勉強を教えてください」ということではありません。御家庭では、学習環境を整えていただき、毎日決まった時間に宿題などの学習を行う習慣を身に付けていただきたいということです。親が我が子に勉強を教えるほど難しいことはありません。子供は、自分の親が教えるとワガママが出たり、言うことを聞かなかったりするものです。ピアノの先生が我が子には 教えないということは、よくある話です。私も担任した子には、学力を伸ばすため、あの手この手を使って指導してきましたが、我が子には、あの手もこの手も通用しませんでした。我が子ほど教えることが難しい子供はいません。ということで、学力の補充は、学校で行います。夏休みも学力補充を行いますので、該当の家庭には、御協力をお願いいたします。2年生の授業を指導して、あらためて子供のやる気を出させることの大切さを考える毎日を送っています。